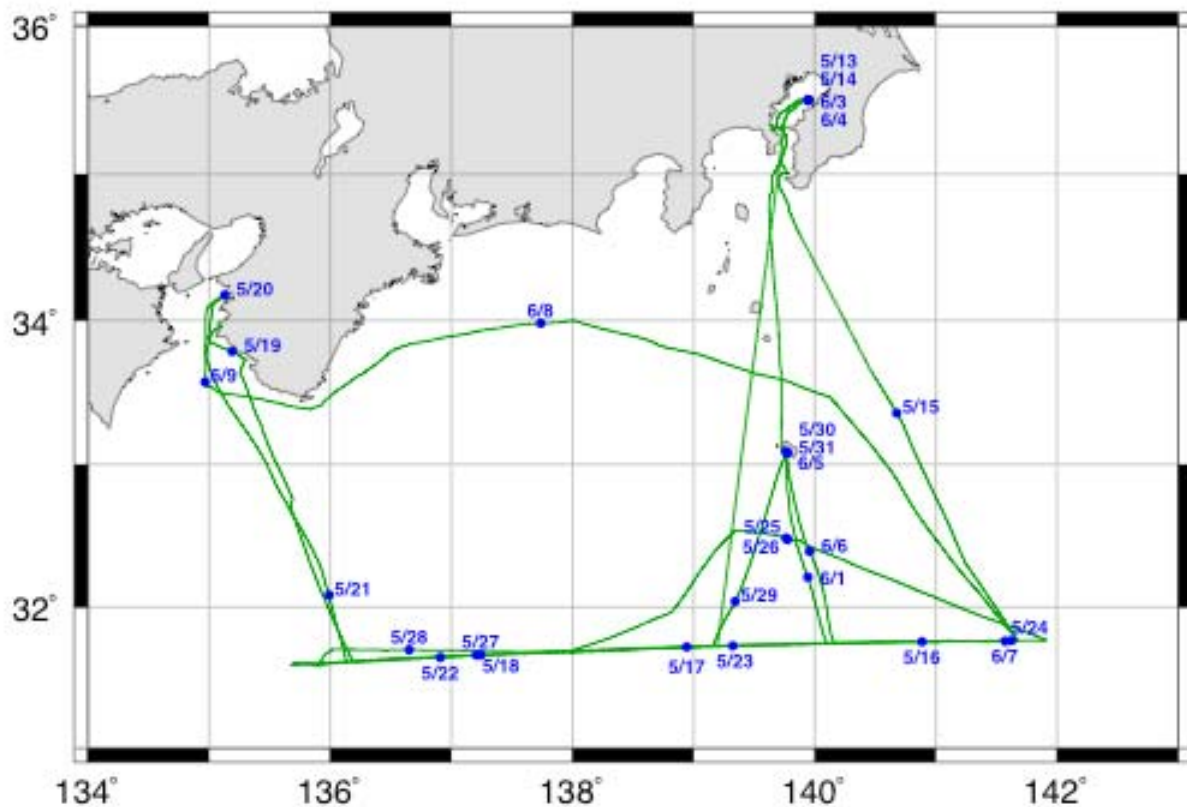


提出日平成 年 月 日

クルーズサマリー

1. 航海関連欄内容：

- (1) 航海番号・使用船舶：KY08-04・海洋調査船「かいよう」
- (2) 航海名称（実施要領書名）：平成20年度「伊豆小笠原海域における地震探査調査研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：海宝由佳・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：金田義行・海洋研究開発機構
- (5) 課題受付番号・研究課題名：J18-23・伊豆小笠原島弧の地殻進化過程解明 -IODP Project IBM のための構造研究-
- (6) 航海期間・出港地～寄港地～帰港地：平成20年5月14日～6月9日・横須賀港～横須賀港～由良港
- (7) 調査海域：伊豆小笠原
- (8) 船舶の航跡図：



2. 調査：

(1) 目的：

地球内部変動研究センターでは、伊豆小笠原島弧の地殻進化過程を解明するため、平成 16 年度より重点的に調査を実施している。本調査では、スミス島北方のベヨネーズ列岩付近を東西方向に横切る測線上にて調査を行い、北部伊豆小笠原島弧―背弧系の大構造を把握する。

本航海のデータは、IODP プロポーザル “Project IBM” において提案している掘削地点周辺の、サイトキャラクター化に資するものとなる。

(2) 実施項目：

1) 屈折法・反射法地震探査（海底地震計（OBS）とエアガンを用いた観測作業）

スミス島北方を横切る東西測線上に 5km 間隔で OBS を 110 測点設置し、エアガンを約 3.5～4.5 ノットで曳航して発振間隔 200m で発振させた。エアガン発振時には、「かいよう」の船尾より受振器（ハイドロホン）の入った長さ約 300m の 16 チャンネルストリーマケーブルを同時に曳航し（深度 10m）、地殻内からの反射波を記録した。調査終了後、OBS を回収した。

2) 高密度エアガン発振調査

OBS 測線が終了した場合に G ガンアレイでの 25m 発振、16 チャンネルのストリーマケーブルでの反射法調査を予定していたが、荒天が続き、OBS 調査を優先するため中止した。

3) 海底地形観測

航海中は測線上で海底地形を実施した。海底地形は SEABEAM によって観測した。

4) XBT

海底地形調査データの音速補正用に、XBT を 3 箇所を実施した。